


グラウンドデザイン

教育目標である3つの「しんこう」に迫るために

親しく交わろう〔親交〕

<学級・授業経営と生徒理解>

- ゆるやかな協働性（学級・授業経営） 
- ・ 分からないことがあれば「分からないから教えて」「ここどうやるの？」と安心感をもって聞くことができる。
- ・ 困っている子がいたら、「どうしたの?」「こうするといいよ」と寄り添う。
- 教員の研修（生徒理解）
- ・ 現職教育での生徒理解、QUの活用、通常の学級における配慮を要する生徒の対応
- ・ なごや子ども応援委員会など関係機関との連携
→ ケース会議等の設定

深く考えよう〔深考〕

<学校教育努力点の推進> 「互いに認め合い 学びを深めよう」

- 「総合的な学習の時間」の授業づくり（カリキュラムの作成）
「総合的な学習の時間」の授業づくりを通じた「ナゴヤ学びのコンパス」の理解と推進
- 考えの共有や振り返りの場面でのICTの活用
- ・ ICT活用の推進を図る。
- ・ アクセスポイントの未設置教室の整備を進める。（学習環境の整備）

進んで行おう〔進行〕

<自分で考えて、行動>

- 学年・学級づくりとして、自治活動（生徒が問題点を捉え、正していく活動）を行う。
- 生徒が、学校の決まりについて考え、見直しを行う。
- 「さんさんルーム」での過ごし方を、生徒が計画し実行する。

家庭・地域との連携

<開かれた学校づくり>

- 学校だより、学校ホームページによる積極的な情報発信をする。
- 学校評価の結果や学校評議員の意見を取り入れて、本校の課題解決に役立てる。

その他

- 週間課程の見直しに向けた検討をする。
- さんさんルームの活用を、よりよいものにする。